

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「すきな こと、なあに」 教材名「すきな こと、なあに」

2 単元の目標

丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。(〔知識及び技能〕(1)キ)

語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(B(1)ウ)

身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(A(1)ア)

好きなことを話題に選び、聞いてもらった反応を使って紹介文を書く学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。(〔知識及び技能〕(1)キ)	①「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ②「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア)	①好きなことを話題に選び、聞いてもらった反応を使って紹介文を書く学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

好きなことを話題に選び、聞いてもらった反応を使って紹介文を書く。この教材では、好きなことの紹介メモと紹介文を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

教師は本人が話せる学校生活の話題も用意する。口述を先に記録し、主語と述語の組合せを声に出して確かめる。想定する難しさは、好きな物の名前を並べるだけで、したことが分からない。評価では、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫しているかを、好きなことの紹介メモと紹介文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○好きなことを話す目的を確かめ、身近な経験から話題を選ぶ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3	○選んだ話題で紹介し合い、質問への返答から伝える材料を選び直す。	思②（話題の選択・紹介メモ・返答）
第3次	4～6 （本時）	○好きな活動とその時の様子を口頭で紹介し、聞き手の質問を受ける。返答から書く内容を選び、語や文がつながる紹介文にする。読み手が受け取った内容を確認、文を直す。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	7	○紹介文を読み合い、伝わった内容と文のよいところを確認。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）

6 本時の指導（4／7）

（１）本時の目標

語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（B(1)ウ）

（２）学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「相手が知りたいのは、好きなことのどんな様子ですか」 【めあて】好きなことを話題に選び、聞いてもらった反応を使って紹介文を書く。 〈予想される児童の反応〉 ・名前だけでは何をしているか伝わらなかった。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 （ 分）	○「相手が知りたいのは、好きなことのどんな様子ですか」 好きな活動とその時の様子を口頭で紹介し、聞き手の質問を受ける。返答から書く内容を選び、語や文がつながる紹介文にする。読み手が受け取った内容を確認、文を直す。 読み手が受け取った意味を確認、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・名前だけでは何をしているか伝わらなかった。 ・質問されたところを文に加えたい。	教師は本人が話せる学校生活の話題も用意する。口述を先に記録し、主語と述語の組合せを声に出して確かめる。 想定する難しさ：好きな物の名前を並べるだけで、したことが分からない。 評価では、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫しているかを、好きなことの紹介メモと紹介文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ （ 分）	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 好きなことの紹介メモと紹介文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・質問されたところを文に加えたい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認する。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「相手が知りたいのは、好きなことのどんな様子ですか」。中央は、好きなことの紹介メモと紹介文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

